



佐藤 雄三さん(82)
キミ子さん(75)
迫町・下舟丁
1965(昭和40)年6月入籍

限りある人生。けんかしてる暇はない

★元々登米市住まいですか
【キミ子】ここに住んで40年はたつけれど、生まれは二人とも志津川なの。

★二人のなれ初めは
【キミ子】学校卒業後、県外にいたけど、チリ地震津波を機に志津川に帰って就職したの。

【雄三】勤め先にお母さんが入社してきてね。かわいくて心配りもできるから、なんとかゲットしないとと思ったね(笑)。

★お互いの性格は
【雄三】今でも心配り上手だね。

【キミ子】責任感が強いね。引き受けた仕事はなんでも一生懸命やるの。

★現在の楽しみは
【二人】ターゲットバードゴルフだね。

【雄三】地域の人たちに声を掛けて、みんなやってるよ。

【キミ子】県外で大会のときは、観光も兼ねて4、5日くらい行ってくるの。

★夫婦円満のコツは
【雄三】けんかは次の日に持ち越さないこと。けんかしてる時間ももつたないからね。

★これからしたいことは
【二人】健康で毎日笑顔で暮らせるように、ターゲットバードゴルフのような生涯スポーツを楽しみながら、地域の親睦を深めていきたいね。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「子どもの頃の思い出」

わが家の近くに大きな池がありました。

春になると、ガマガエルが来て卵を産み、池一面が真っ黒になるほどのオタマジャクシがかえりました。

夏には、カワセミが来て巣を作りました。水面に映る美しい姿に、子どもながらに感動したものです。魚もたくさんいました。魚がいる所に釣り糸を垂らしても、私の糸には、1匹もかかりませんでした。

秋は紅葉、木々は足早に葉を落とし、寒い寒い冬がやって来ます。池は全面が凍結し、スケート場になります。スケート靴などない時代です。竹を割り、しならせ、両足に縛り付け、スキーのように滑ります。

佐藤 里江さん(76)

東京米山会計監事
米山町(朝来)出身(旧姓 榊原)



ります。辺りが暗くなるまで遊んでいました。何もない時代でしたが、自然に育まれ成長できた事を幸せに思っています。

小学校に入学したのが、1949(昭和24年)4月。田んぼのあぜ道を通り、深い山道を抜け、県道に出ると、その先に小学校がありました。子どもの足では1時間余りの道。雨にも風にも負けずに通った6年間でした。中学校は平たん道のり、高校は砂利道を埃にまみれながら自転車通学しました。今、丈夫な体があるのは、ふるさとの自然に鍛えられたものとの感謝の気持ちでいっぱいです。

東京米山会に携わって17年余り。年々参加者が少なくなっています。昔と違い少子化になったこと、新幹線の開通で、ふるさとが近くなったことなど、関東圏に入る人も少なくなつたと思います。1年に1度の総会には、懐かしの面々がふるさとの香りを求めて集います。登米市の方々にも、ご出席いただき、近況などを伝えてもらいます。ふるさとの物産の販売などもあり、いつも楽しいひとときを過ごしています。

おらほの道の駅

道の駅米山
「ふる里センターY・Y」



道の駅スタッフ坂本さんお勤めのイチゴソフト(写真はミニサイズ)。道の駅米山オリジナルの大型つるしびなが皆さんをお待ちしています。

今月は、道の駅米山「ふる里センターY・Y」の山崎準一郎駅長にお話を伺いました。

Q お勧め商品などを教えてください

レストランのスूपカレーが人気メニューです。辛さを0から30倍まで選ぶことができ、辛さが病みつきになるとリピーターも多いです。

Q これから開催されるイベントなどを教えてください

好評を得ている「イチゴまつり」を2月23、24日に開催します。期間中、イチゴソフトとイチゴアイスを特別価格で提供します。米山産イチゴ「もう



スープカレーの具材はチキン、ポーク、ハンバーグから選べます。各1000円

いっこ」は人気商品。売り切れが予想されますので、早めにお買い求めください。

また、米山町出身の陶芸家、鈴木由香さんの作品展を同時開催します。沖縄県壺屋焼や栃木県益子焼で学んだ伝統工芸技術を基に制作した器など



宮城オリジナル品種「もういっこ」
店内はイチゴの甘酸っぱい香りに包まれています

【問い合わせ】道の駅米山「ふる里センターY・Y」
0220(55)2747

短歌
まちの文芸

作品募集!
●3月号は俳句川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、1月31日(木)まで応募ください。作品氏名には全てふりがなを振ってください。
●応募者多数の場合選考して掲載します。

ある老舗昔ながらの対話出来
癒されながら買物出来し
そそり立つ銀杏巨木の天樹齡
落葉じゅうたん爺婆並びて
夕暮の水面に群れる白鳥よ
機織沼に鳴き交わす声
もみじ葉をひとひらのせてぎんなんを
荷作る朝の心弾めり
もうひとつ年齢をかきねん八十路坂
平成最後除夜のかねきく

菅原たろ子 (迫)
鈴木 厳優 (登米)
千葉 良子 (東和)
熊谷たかよ (中田)
佐々木栄一 (中田)

怪我多き身をいたわりてかにかくも
九十八年吾は生きたり
健やかに家族揃いし初日の出
願うは向こう安泰あれと
離り来て蜜柑もぎ採る作業終え
夕刻の空ふと仰ぎ見る
小春日に光いざない舞ふ蝶々
羽根を休めし花を求めつ
諸人に支へられつつ生き越して
米寿迎ふる初春ありがたし

千葉 源治 (中田)
石崎よしの (米山)
水野トヨコ (米山)
佐々木まき (石越)
阿部 洋子 (津山)